

## 「りんご新わい化栽培(高密植栽培等) かん水について」

### 1 りんご樹へのかん水について

#### (1) 水の役割は

- ア 新梢の伸長、果実肥大に必要。土壌が膨軟になり、根が伸びやすくなる
- イ 肥料の溶解(固形肥料を作物(ここではりんご)が吸収可能なイオン化)に必要
- ウ 土壌微生物の活動に必要 ⇒ 地力窒素の有効化など
- エ 光合成に必要 ⇒ 炭水化物の生産  
などです。

### 2 かん水時期など

※詳しくは、平成 28 年 1 月改定発行の「果樹指導指針」80～86 ページに長野県果樹試験場での試験結果等が記載されています。ここでは、ポイントのみ記載します。

- (1) 比較的早い生育時期(前期の 5・6 月)に土壌水分が不足してストレスが加わると収量は少なくなる傾向です。
- (2) 過剰のかん水は、果実糖度や硬度を低下させる場合があります。糖度を高めるためにも、収穫期が近づいたらかん水をさける。とくに早生種では早めにかん水を切り上げます。
- (3) かん水の開始時期
  - ア 連続干天を基準とする方法  
夏期で 6 日間位連続して晴天が続いた時が、かん水開始の目安となります。

- イ 「テンシオメーター」の数値でかん水時期を決定する方法があります。  
「りんご実践ほ場」には、テンシオメーターが設置してあります。写真



**写真** りんご短期習得実践道場「実践ほ場」に設置した「テンシオメーター」

※ 1 時間ごとの測定値は、「情報集積場所」の下段表、右から 3 枠目の「pF」で確認できます。

### 「テンシオメーター」によるかん水開始の目安について

りんごは、pF 2.7 以上になると根の吸水力が極端に落ちます。かん水開始の目安は pF 2.5 程度です。数値がこれ以上になったら「かん水」を行います。